

第18回研究会より

参加者 9人+森田智幸（山形大学講師）先生、樋渡美千代先生（山形大学）

会場：雪の里情報館

8月9月はできなかつたこともあり、久しぶりの研究会となりました。

一度は研究会の存続も考えましたが、本研究会に期待されていることもあることを知り

再びのスタートです。

今回は、山形大学から樋渡先生、大学院2年の遠藤さんも参加なされ、考えていた以上の

参観者で学び合いができました。素晴らしい学びの場でした。

実は、この日、森田先生、樋渡先生、遠藤さんと、前日のT小学校の公開研究会に招かれた

こともあり、新庄市に宿泊でした。そのため、朝から、私の車で、本市や最上地区について

私なりのツアーを組んだところです。

ツアー名は「学校がなくなると地域はどうなるか？」です。

廃校になった、**新庄市立山屋小学校⇒新庄市立萩野小学校土内分校（現在建物はありません）**

⇒金山町立朴山分校⇒金山町立谷口分校

雨が降ったり止んだりでしたが、学校跡地を利用して成功している例や寂しく

なった地域など一同、学校の存在意義について思いを深めました。最後に訪れた谷口分校跡を活用して現在『がっこそば』となっています。地域のお母さん方がそばを打って体育館を改造したところでお客にふるまっています。宮城県のバスもきていました。昼食はここで、板そばとそば餃子を食べました。こんな山の奥にも、遠くから人が集まってくる現実もまたあります。



山屋小学校跡



金山町

立朴山分校跡 現在 教育資料館で自由に中にはいれます



金

山町立谷口分校跡 現在『がっこそば』

さて、雪の里情報館に戻って、13時より研究会の開始です。

まずは、参加者が集まるまで、N小学校の図工の授業をスクリーンに映していました。ただ、触りだけのつもりでしたが、あまりにも子ども達の意欲の高さや集中力。加えて、滅多に見る機会がない図画工作ということで、結局最後までみてしまいました。

【N小学校1年 図画工作】

どろ粘土を使って、手で画用紙に思い思いに色を塗り手繰る授業です。

大人の私たちがみても、気持ちよさそうなくらい面白い課題です。子どもたちも夢中。90分の授業でした。子どもの数が多いなあと思ってみると、なんと2クラス合同の図工の授業。図工室にしては広いなあと思うと、ランチルームにブルーシートを敷き詰めての環境です。この図工のために、数週間は教室で全校児童給食をとるそうです。部屋には、前回グループで一枚の絵を描いた（絵というか、色の塗り手繰った抽象画みたいなもの）が置いてあります。

ランチルームを授業で使うところに、N小学校は日頃より授業実践に力を入れて、職員に同僚性が育まれていることがわかります。一人の教師だけでは、こんなに全校を動かすことはできません。

・まっ赤なった手を、机と机の間においた水の入った箱に手をいれて洗う。腰に挟んでいるタオルで手をふく。他の色のお盆に手を入れてまた描いていく。色のお盆は、基本は一人ひとつなんですが、他人のお盆の色を使ってもかまいません。

・後片付け大変だなあなんて眺めていると、まったくトラブル（水をまかず、他

人の服に色をつける) なんかありません。子どもが夢中になると、むしろトラブルは発生しにくいんだなあと思いました。

・森田先生の解説から、画用紙は3枚まで描くことができますのですが、1枚から3枚とストーリーとなっている子どももいれば、一枚一枚まったく違うイメージで描く子どももいます。描いていきながら、イメージがだんだん出来上がっていく様子がわかります。

・この授業では、子ども＝学習者ではなく、子ども＝表現者となっているのがわかります。だからこそ、そこには上手い下手ではなく、みんなそれぞれの表現が対等に評価される授業となっています。まさに、図工の本質に迫る課題だったのです。参観者から、普通では、作品コンクールの出展のために図画工作をさせたり、追われることが多いこと、正直いうと図画工作にあまり力を入れる学校が少ないことの話になりました。

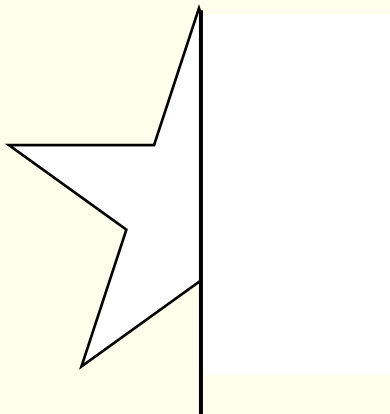
・小学1年生として信じられないくらい落ち着いた雰囲気。作業の中断の合図は、音色のやさしいハンドベルだが、どの子も静かに聞いている。そこは、入学してから、ずっと担任の先生がペアで学習を積み重ねてきたことが大きいようだ。

・小学4年生から1年生の担任になったのが授業者。低学年ばかりしている先生に多いのは、態度指導する意識が高いこと。低学年の経験が少ないからこそ、このような本質を大切にできる授業ができたのだろう。

(森田先生) 表現教科の課題の難易度は、制限のかけかただと思う。たとえば今回の図画工作は、制限がほとんどない、だからこそ子どもの参加意識が高い。そこから、じょじょに道具を使う、テーマをつけるなど制限を加えていくのがいいだろう。音楽でも、すぐにリコーダーを使うのは疑問。打楽器などは制限が小さいため、子どもは夢中になりやすい、そこから少しずつ制限をかけていく感じ。



【T小学校 6年算数（線対称）】



上の図の線対称の図形を描いてもらうのが課題です。

教師の発問

T：どうすれば線対称の図形が描けるか考えてみよう

T：難しいところをグループで比べてみて

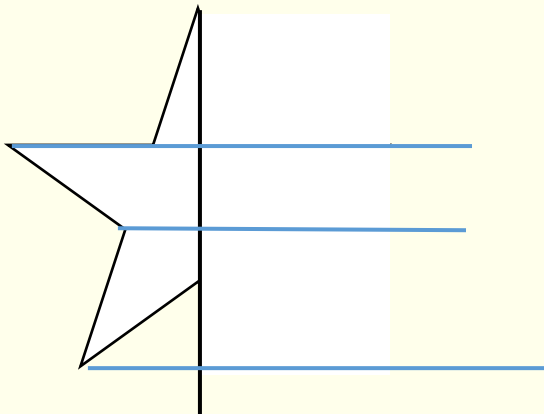
T：角度が難しいって言っているよね。じゃあ、分度器使わないで角度使わなくてやれませんか？

T：(振り返り) ここまでわかった。ここまでわからなかったことを書いてください。

(生徒の悩み)

授業も進むと、下図のような補助線が出てきた。

どうやって平行の3つの線を引くのが問題になっていた。



【参加者の話し合いから】

- ・教職 3 年目とは思えない授業者の対応だった。無駄なことばを一切発していない。
- ・少なく教えて、多くを学ばせるというひとつの事例である。
- ・経験年数が多くなるとどうしても、授業を仕組む傾向が強くなる。若いからこ

そ、その仕組みがあまり感じられない。

・すごい教材研究をしているのがわかる。もっとすごいのは、教材研究をしたのにも関わらず、語らずに気づかせる対応になっているのがすごい。

・算数・数学も“戻るところ”が大切だ。国語ではよく「テキストに戻る」と言われるが、算数・数学では「経験値」だと思う。経験が少ないならば、折り紙を折らせるとか、はさみで実際に線対称の図を作らせるとか、経験を重ねてから考えさせたい。

・(森田先生) 課題が難しいと語りが「ぼそぼそ」となる。はっきり発言する授業はあやしい。ぼそぼそと自分自身に語っているようなことばでも、周りがそれをつかんでくれる。そこから学びは始まる

・(森田先生) グループで戻すという指示は、この授業者の場合、子どもの理解度にでこぼこが生まれ始めると、「グループへの戻し」を入れているようだ。グループでは、課題をやりきる前に、全体に戻してもいる。そこが、この授業者の特徴でもあるし、考えられている点。

多くのことを今回も学びました。さらにこの勉強会を地区全体に広げていきたいものです。

ありがとうございました。



戻る